

# 東京天台

平成二十四年  
春彼岸号

発行所  
天台宗東京教区

杜多徳雄

〒107-0062 東京都港区南青山1-3-22  
TEL.03-5785-3481

<http://www.tendaitokyo.jp/>



お地藏様は、お釈迦様の入滅後、のちに弥勒菩薩が出現するまでの現世界において、衆生を救済するといわれています。お地藏様は大いなる慈しみの心によって、私達を救済するために自らこの世に留まり、私達の悲しみや苦しみを代わりに受け、常に私達と共に救いの道を歩もうと願う菩薩様なのです。

## 慈悲の仏様 お地藏様

とても親しみ易く、身近に感じることのできる理想的な現世のお導師様なのだと思えます。造られた石像の教としては、他の仏様の比ではないでしょう。

### 「おのりやせ、地藏さま」

お地藏様の親しみ易さは東北の子供の遊び「地藏遊び」にも具現化されています。一人の子供に南天の木の枝を握らせ、その子を取り巻いてグルグル廻り「おのりやせ、地藏さま」と唱え、その子供がお地藏様になるといいます。その後は「もの教えにごさったか地藏さま、遊びにごさったか地藏さま」と歌ったり踊ったりして、お地藏様が乗り移った子供と問答し、時には紛失物の所在まで聞くそうです。これが現在に伝わる「カゴメカゴメ」の原型といわれています。(柳田国男「日本の伝説」より)

### 「お地藏様のお裁き」

もう一つ、お地藏様には面白いお話があります。お地藏様は閻魔様だといふのです。日本中に無数にあるお地藏様が、実は閻魔様だったなんて、もう悪くないことではできません。誰の目に触れなくても、善いことはいっぱいしてお

こうと思いませんか？その昔「遠山の金さん」という名番組がありました。お奉行様が民間の中に親しく入り混んで世の中の悪事を暴き、地道にコッコツン張っている庶民が報われるというストーリーは、この世で行った善悪の行いをお地藏様が全て見ていて、いざ閻魔様のお裁きとなった段階で嘘はつけない「お地藏様＝閻魔様」というお話とよく似ていると思いませんか？

### 「復興への願い」

東北の有名な詩人、宮沢賢治の「雨にも負けず 風にも負けず (中略) 怒は無く 決して瞋らぬ いつもしずかに笑っている (中略) 日照りのときは涙を流し 寒さの夏はおろおろ歩き (中略) 褒められもせず 苦にもされず そういうものに私はなりたい」という詩は、まさにお地藏様のお姿やお気持ちをよく表しているのではないのでしょうか。

あまり知られていませんが、多くのお地藏様が東日本大震災の各被災地に寄贈されているそうです。お地藏様の功德を知る方々が、現地の人々の心の癒しを願うと同時に、これからの復興を見守って欲しいと願う、全国からの心温まる贈り物だと思います。きっと、お地藏様は優しく大きな慈しみの心をもつて、いつも応援しながら私達を見守ってくれているはずですよ。

昨年三月十一日の東日本大震災から一年が経とうとしています。昨年末に発表された一年を表す漢字は「絆」でした。震災後の、かけがえない人と人との結びつきや、女子サッカー等の活躍にことよせたのが、選出理由だそうです。大方の予想では、順当だとの評価があった一方、とある新聞のコラムには、「震」の方がふさわしいのではないかと、との意見がありました。「確かに震災直後には、結びつきを感じる事が多かった。でもそれは今も続いているのだろうか。冬の被災地で皆、「絆」という言葉に温かさを感じているだろうか」との疑問を投げかけています。

薄れていき、何の疑問もなく、時を過ごしてしまう。その事に対する、つかみどころの無い怖さを感じずにはいられません。95年の阪神・淡路大震災発生から一年経って、改めて被災された方々にお話を伺いに行く機会がありました。そこで印象的だったのが、沢山の方から、「忘れられてはいませんか」

「現代社会と仏教」  
寄り添う心を  
忘れない

「日常に終わりは無い」という言葉を繰り返し聞かされた事でした。東日本大震災の後、社会は変化しました。その変化を様々な側面から見て、それぞれのあり方について、考える機会を持たたと思います。しかし、日々溢れている情報の中で、少しずつ現実味を喪失してはいないものでしょうか。それにあらうかのようには、今も様々な問題に直面している現場に飛び出して行く人もいます。現場から聞こえてくる声に耳を傾ける事、関心をもち続ける意識が、被災地から遠く離れている私達の中で、段々薄れていってはいないでしょうか。先ほどのコラムはこのように締め括られています。「亡くなつた人たちの思い出してつらい思いをする人も多いだろう。その時、震える気持ちを共有すること

## 東京教区団体参拝旅行

### ● 比叡山延暦寺・金峯山寺・高野山金剛峯寺参拝の旅

今年の東京教区の団体参拝旅行は、天台宗総本山である比叡山延暦寺をはじめ、修験道の総本山金峯山寺と真言宗総本山の高野山金剛峯寺を巡る旅です。是非ともご参加下さい。

**期 間** 平成24年10月16日～11月9日  
上記期間のうち2泊3日

※日程、詳細、旅行代金については、菩提寺または下記にお尋ね下さい。

**旅行取扱:** 近畿日本ツーリスト(株)東京団体旅行支店  
Tel 03-6891-4355(二日市)



## 浅草の地から

### 東京教区托鉢報告

天台宗では、毎年十二月を「地球救援募金強化月間」と定めて全国一斉に托鉢を実施しております。宗祖伝教大師の教えである「忘己利他」の精神を實踐

する活動としてすっかり定着した全国一斉托鉢ですが、東京では毎年浅草寺の宝蔵門前をお借りして実施しております。

昨年は、冬晴れの十二月十日（土）に僧侶52名が参加して実施されました。午前十時に浅草寺ご本尊に向かつて般若心経を誦読した後、午後二時頃までの約4時間のあいだ、東京スカイツリーが望める門前で募金活動を行いました。

今年五月に開業予定の東京スカイツリーは高さ634メートル、宝蔵門向かって右手にその偉容を間近に望むことができます

ため、ご参拝の方がカメラを片手にその姿を写真に収めながら、温かいお気持ちとともに浄財を僧侶たちへ托していきました。

昨年は、東日本大震災をはじめとした多くの災害が日本全土を襲い、多くの方が被災された苦難の一年となりましたが、被災者を支援しようとする心をさしづける方も多く、「絆」の大切さが改めて認識された一年でもありました。そのため、ご参拝の方の募金への関心も例年よりも高かったように感じられました。皆様からいただいた浄財

366,007円は、一隅を照らす運動総本部他、各種団体へみなさまの温か

いお気持ちとともに寄託されました。

下記のご案内にもありますように、今年の一隅大会は浅草公会堂で実施されます。自立式電波塔として世界一の高さを誇る東京スカイツリーは、東京下町地区から日本の文化や技術を世界に発信することをコンセプトとしているそうですが、天台宗東京教区も一隅大会や全国一斉托鉢を通じて、浅草の地から一人でも多くの方に宗祖伝教大師の教えを広めていければと考えております。





本尊 目赤不動尊

六月、五代將軍綱吉公の寵愛を受けた「お伝の方(瑞春院)」の父親を供養する寺として、綱吉公の御下命により建立された。開基は寛永寺一山明王院。

当初は、駒込堂坂(現・動坂)に庵を結び「赤目不動尊」として開山されたが、動坂付近には徳川家の鷹狩りの場がある。

- 目黒不動 龍泉寺(目黒区)
- 目白不動 金乗院(豊島区)
- 目赤不動 南谷寺(文京区)
- 目青不動 教学院(世田谷区)
- 目黄不動 永久寺(台東区)
- 目黄不動 最勝寺(江戸川区)

**綱吉公建立**  
**世尊院**

当寺は元禄八年(1695)

# 天台の寺めぐり 33

## 駒込・千駄木・湯島周辺

**目赤不動**  
**南谷寺**

り、当時から地名になっていった目黒・目白にちなみ、家光公より「目赤不動」と改称するよう申し渡されたのである。

江戸五色不動のうちのひとつで、関東三十六不動第十三番札所に選定されており、月例護摩供が修され参拝者が絶えない。

### 【江戸五色不動】

- 目黒不動 龍泉寺(目黒区)
- 目白不動 金乗院(豊島区)
- 目赤不動 南谷寺(文京区)
- 目青不動 教学院(世田谷区)
- 目黄不動 永久寺(台東区)
- 目黄不動 最勝寺(江戸川区)



本尊 釈迦如来

当寺は、湯島天神の運営管理を行った別当寺の、寛永寺末・喜見院の一堂宇であった。元禄七年(1694)、菅原道真公が篤信であった聖天さま(大聖歡喜天・慈覚大師作)を、

**湯島聖天**  
**心城院**

その待遇を受けていた。江戸時代の度重なる火災や、東京大空襲により当寺の堂宇は全焼し、宝物等は一切失ってしまったが、奇跡的に本尊だけはその難を逃れ、今日に至っている。



江戸名水 柳の井戸

当寺は江戸の大火や関東大震災、空襲にも全く遭うことなく、聖天さまの靈験のあらたかさを今に伝えている。

喜見院の第三世宥海上人が比叡山より勧請し、開基された。豪商・紀伊国屋文左衛門も帰依した人であった。境内には江戸名水の一つ「柳の井戸」があり、『江戸砂子』に「この井は名水にして女の髪を洗えば如何ように結ばれる」と記され、美髪・厄除けの御利益を求める参拝者、また江戸三十三観音霊場の巡拝者で賑わう。放生池には元禄の頃より縁起の良い亀を放し、今でも「亀の子寺」として親しまれている。